北海之光
9月号　北海道教区報

わたしがここにおります
わたしを遣わしてください
イザヤ書6章8節

発行所　北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電　話　011－717－8181
ＦＡＸ　011－736－8377
E-mail:hikari@nskk-hokkaido.jp
http://www.nskk-hokkaido.jp
発行人　植松　誠

あなたと歩みたい

釧路聖パウロ教会・厚岸聖オーガスチン教会牧師
帯広聖公会管理牧師
司祭　グレゴリー　松井新世

日は照っているが、わたしたちの内部は暗い、そう書いたのはロシアの小説家だったでしょうか。珍しく雲一つないあるお昼時、私と相棒ポールは数日ぶりの散歩に出かけたその帰り、まるで後影を踏まれるような感じで声がしました。「引っ張られているよ、はい、はい、ちゃんと歩いて」見慣れない方ですが、上品な、やや高齢の女性でした。足取りも軽く、シャンシャンと音がするように弥生の坂道を登ってきたのです。「老犬なので」なんだか気後れする私。「しっかり、がんばって！」どちらに向かって激励してくれているのだろう。「あの、病気持ちで、なかなか…」と最後まで言い尽くさない内に、「あ、そう」と言葉を切って、またシャンシャンと二〇〇メートル離れたバス停まで歩いていってしまいました。残された私たち、家に至る頃には、彼女は目的地に着いているのだろうな、と思ったのです。その日は不思議でした。相棒との散歩間もなく、上からピシャんと水一滴落ちてきたのだからです。木に付いた露が落ちたのでもありません。そして先程の女性とのやり取りの後、相棒と心が合わさったこと「冷たい人だね」と。〝冷たい水の中を君と歩いていく　何も恐れるものはない　夏の一日　グラスの底を〟谷山浩子の声が静かに頭上を駆け巡ります。

相棒ポールは齢一四歳、昨年から次々と腫瘍や内臓の病気に罹り、すっかりやせ細り、立つのもやっと。亀のような歩みの散歩になりましたが、それでも相棒はなんだか嬉しそうに尾を微かに降るのです。

小山晃佑氏の「時速五キロの神」という説教は、イスラエルの出エジプトの出来事から着想を得たということです。エジプトで奴隷であったイスラエルの民が、モーセを指導者に押し立てて、エジプトから脱出した出来事のことです。イスラエルの民は奴隷状態で虐げられたエジプトからなんとか脱出したものの、それからカナンの地に落ち着くまで、四〇年間荒野で過ごしました。この四〇年間、神が人々と共に歩まれたのは、まさに人間の歩行速度と同じ、時速三マイル（五キロ）であったということです。イエスの実際の公生涯を考えたらどうでしょうか。ナザレからエルサレム、一説には直線距離で一〇〇キロ、実質一四〇キロ、ほぼ三日歩けば着く距離だと言うことです。三年半の公生涯は時間に直すと約三〇六七二時間、電卓を叩き、時速〇、〇〇〇五キロ（約五メートル）と出ました。確かに、イエスの歩みは、正道から裏道に入ったものでした。それは弱くされた方々への心でした。しかし、三日歩けば着く距離を時速一キロ未満で歩み、最後は子ロバでエルサレムに向かわれたその心に驚きます。「もしもし亀よ亀さんよ♪」という歌は兎と亀の競争の童話ですが、のろまな亀が兎より早くゴールインするというものです。最後まで望みを失わず、ゴールを見失わなかったがゆえに亀に軍配が上がりました。相棒の現状や亀の童話は、私には自然と、沈黙というゼロの地点にあげられたあの方を自然と思い起こさせるのです。

相棒との散歩は、時に歩みを合わせるのに苦痛を伴います。我慢できずリードを引っ張ってしまう時もありましたが、今や抱きかかえての散歩に移りつつあります。蓋し、主よ、信仰というものが、まだわたしの中に残っているならば、この歩みを尊いものと理解させてください。こう祈りつつの歩みが今朝も始まります。祈

—心の窓をひらく—

福音と私（二二〇）

— 今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか —

室蘭聖マタイ教会信徒
エリザベツ　藤井　扶美子

好きな聖句

わたしは世の終りまで
いつもあなたがたと共にいる
マタイによる福音書
第二八章二〇節

この八月、私は九〇歳としての一歩を歩き始めました。

室蘭に生まれ育ち、幸町の一角にあった、室蘭聖公会に足を踏み入れてから、七〇年になるわけです。

振り返ると、余りにも多くの事が去来して、多くは、忘れ抜け落ちてしまっている訳ですが、不思議とまた、一つ一つの事が鮮やかに思い返され繋がって、私を支えてくれていると思います。

終戦後のひどいガリ版刷りの教会誌に青年達は、それぞれの入信の思いを書きました。有珠の向井山雄司祭、青年達をこよなく愛して、楽しげに見守って下さった。年に何度か巡回して下さった上田主教様。

今思うと、目白聖公会から北海道に赴任されて生涯を捧げられ、寒い冬ストーブを囲んで、色々お話して下さるのを、私は一歳の子を背負い、三歳の子をなだめながら、一言ももらすまいと熱心に聞いていたけれど、その何十分の一も理解できていなかったろうと思う。ただ、今まで知る術もなかった聖書の世界に魅かれて通っていました。

私の生家は、熱心な浄土真宗で父の死後（私は、一三歳でした）母の読む御文章と言うお経を聞いていて、何故か倉田百造著「出家とその弟子」の中にその接点を見出していたのです。

古い建物で、それは寒い教会でしたが、楽しかった。

寒さと緊張で震えながら日曜学校の先生もしました。

教会に住まわれた野田御夫妻、夫人は、実は東京の双葉幼稚園の先生だったのです。（知る人ぞ知る！伝記になる程の方）本当に多くの方に交わりを頂きました。

ただ、主日毎に教会に通っていただけの私ですが、本当に多くの御恵みを頂き、少しは、成長させて頂き、感謝です。

二〇一八広島平和礼拝

聖職候補生　ノア　上平　更（新札幌聖ニコラス教会）

昨年に続き八月六日、広島復活教会で行われた広島平和礼拝に北海道教区の教役者として出席しました。当日朝八時の聖餐式は全国から集まった一七〇名を超える参列者と共に献げられました。

礼拝後、被曝体験者である梶矢文昭氏を招き講演会が行われました。梶矢さんの話しぶりは、不思議なほど冷静で、被爆したことに対する怒りや悲しみの感情を露わにした口調ではなかったことが印象的でした。自らの痛みの体験を、ただ憤りや悲しみだけで語るのではなく、あの日、原爆投下直後に何が起こっていたのかをできるだけ正確に伝えたかったからでしょう。そういう意味で、梶矢さんの語る言葉は今まで聞いた体験談と少し違う印象をうけました。原爆の恐怖をまだ知らなかった民間人としての驚きと戸惑い、爆風の後に消し飛んだ街の路地と、傷を受け生き残って苦しむ人々の声を、現場を歩きながら見ているように詳細に伝えてくださいました。

炸裂の瞬間に焼かれて亡くなったと思われる梶矢さんのお姉さんの表情は、とても安らかだったそうです。被爆の後遺症に苦しむ中で「生き残ったことは良かったのだろうか」という葛藤もあったそうです。しかし、生き残った者の使命として「小さくとも一歩前に進むこと、続けること。平和が訪れるまで」と語り、この後も講演があるのだと言葉通りに体現されていました。

ローマの信徒への手紙はパウロから何人もの同労者や信徒たちへの挨拶で締め括られます。遠く離れた北海道に住む私たちにも、広島や長崎の被爆体験者やその遺族の一人でも多くの言葉に耳を傾け、その人たちを覚えて祈ることは小さくとも続けられる平和への一歩となるのではないでしょうか。

梶矢さんのような当事者の語り部は年々減っています。一人でも多くの方が、広島復活教会での平和礼拝に限らず、現地を訪れ、痛みを受けて平和を望む人たちと思いを通わす機会が与えられますように。

常置委員会報告

第一〇回　八月二九日

《協議事項》

一、来年度の教区予算に関する件

・各教会よりの奉献額回答を踏まえ、予算案の修正について協議した。

二、宣教活動推進部と財政部との話し合いの件

・「北海道教区の将来像」を宣教・財政の両面から検討するため両部会の合同会議の機会を近々に設ける事とした。

三、教区会書記の選任の件

・永谷亮司祭（長）、上平更聖職候補生の両名を選任した。

四、WCRP日韓宗教指導者交流の行事に関する件

・一〇月二三～二六日に、有珠聖公会・札幌キリスト教会などを会場に開催予定の同プログラムに積極的に協力することとした。

五、リベリナ教区との関係について

・同教区の熊坂司祭来道時に、今後の関係について協議の機会を持つこととした。

六、稚内聖公会、厚岸聖オーガスチン教会、旧帯広双葉幼稚園に関する件

・現況報告を聞き、今後について多方面から協議した。継続審議。

七、植松主教出張の件

・一二月二日、東京教区　目白聖公会一〇〇周年記念礼拝への説教者として出張を承認した。

八、教役者研修補助の件

・聖公会人権セミナーへの広谷司祭の参加を承認し、費用の一部を補助することとした。

主教室より

八月のお盆近くに釧路と厚岸の教会を巡回しました。

二一年前、最初にこの両教会を巡回したのは七月の終わり頃でした。最初ということで、土曜日の夜、市内の食事処で鍋料理のおもてなしをいただきました。大阪でも東京でも真夏に鍋料理ということは先ずないのでとても驚きました。丁度その夜は「霧フェスティバル」ということで、食後、妻と娘とフェスティバル会場になっている岸壁に行きました。とても肌寒い夜でしたが、霧はまったくなく、澄み渡る夜空に、人工的に起こした煙が漂っていました。

翌日の午後は厚岸の礼拝を済ませ、その夜は厚岸の旅館に泊まりました。信徒のSさんが、「明日はコンブ漁の解禁日で、朝五時に花火の号砲で一斉にたくさんのコンブ漁船が出て行くので、その豪快な光景を主教さんにお見せしたい」ということで、翌朝、四時半にSさんとご子息が車で迎えに来てくださいました。三時頃から家族三人、緊張して起きて待っていましたが、四時半、外に出ると、深い霧。何も見えない中、Sさんの車で、床潭（とこたん）という集落の海が見渡せる丘の上に行きました。この霧では、今日の解禁は延期かと思っていたら、ドーンという音が響き、一斉にゴーオーッという爆音が聞こえました。視界が全くない中、コンブ漁船の出航を想像しました。

それから二一年、今回は妻と二人、床潭のその丘に。快晴の中、海が眼下にどこまでも広がり、素晴らしい景色でした。あらためてコンブ漁解禁日の勇壮な光景を思い描きました。

Sさんはご体調がすぐれず、厚岸の礼拝にはいらっしゃらなかったので、礼拝後、お宅を訪ねて病床聖餐式をしました。「Sさん、イエス様のおからだですよ」とSさんの手にご聖体を。Sさんは「いただきます」と。涙いっぱいの陪餐でした。

主教　ナタナエル　植松　誠

教区逝去教役者記念聖餐式

一〇月一〇日（水）

午前一〇時三〇分

於　主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭　森　安　延　衛

一九四五年一〇月九日

主教　八　代　斌　助

一九七〇年一〇月一〇日

伝道師　笠　間　伊太郎

一九〇一年一〇月一五日

司祭　芥　川　寿　哉

一九七五年一〇月二〇日

伝道師　石　川　光　子

一九六八年一〇月二一日

司祭　江　口　博

二〇〇三年一〇月二二日

北海道胆振東部地震発生

九月六日未明に起きた地震では四一名が亡くなられ、多くの方が負傷し、また多くの家屋が倒壊しました。教会関係では、苫小牧聖ルカ教会の外壁が一部落下し、室蘭聖マタイ教会の牧師館の窓が数枚割れ、新札幌聖ニコラス教会牧師館の床が少し傾きました。教区では苫小牧の教会にボランティアセンターを設置しました。詳細は、教区事務所主事の下澤司祭までお尋ねください。被災者のためにお祈りください。

ユース・アッセンブリー二〇一八報告

教区青年会　司祭　クリストファー　永谷　亮

今年のユース・アッセンブリーは八月九日（木）～一二日（日）まで、小樽聖公会を会場に行われました。参加者は小学五年～中学二年までの九名（男子三名、女子六名）、スタッフは私を含めた教役者二名、学生・社会人四名の総勢一五名でした。

今年のテーマは「わたしがわたしである、ということ」として、竹鶴リタ、石川啄木、小林多喜二といった小樽にゆかりのある人びとから、「自分らくしくあること」について学びました。

小樽の小学校の先生からは北海道と小樽の歴史についてお話を聞き、小樽聖公会信徒で中学校教諭（国語）の高橋純子さんからはリタさん、啄木、多喜二などについてお話をしてくださいました。学びの翌日には実際に町を散策。小樽文学館では学芸員の方からお話を聞き、小樽港内遊覧船にも乗って海から小樽の町を見、港町小樽について知ることができました。

小樽はおいしい食べ物の町でもあります。多喜二の叔父が小樽で創業した三星の「よいとまけ」、なるとの「鶏の半身揚げ」、小樽B級グルメの「あんかけやきそば」等をおやつや食事でいただいたり、和菓子を好む北陸出身者が多く移り住み和菓子文化が根付いた地域であることから、「和菓子製作体験」を行ったりしました。

最終日の日曜日は小樽聖公会で主日聖餐式と愛餐会。教会の皆さんとの交わりにも感謝いたします。今回は七名が初参加でしたが、みんなすぐに打ち解けて仲良くなり、病気や怪我もなく、毎日いつもより少し遅くまで起きて一緒にゲームなども楽しんでいたようです。

最後になりましたが、皆様のお支えとお祈りにも感謝いたします。

〈参加者の感想〉

宮本　樹（いつき）（中二・札キ）
私が一番楽しかった活動は練切（和菓子）を作ったことです。私は練切が好きなので実際の作り方を知ることができてうれしかったです。機会があれば家族でやりたいです。

服部優奈（中二・札キ）
私が一番印象に残ったのは市立小樽文学館に行ったことです。小林多喜二や伊藤整などについて興味深いことがいろいろと分かりました。他の作家についても調べたいです。

厚母（あつも）　翠（みどり）（中一・ミカエル）
僕は、今回のユース・アッセンブリーでたくさんの思い出ができました。その中で一番楽しかったのは和菓子作り体験です。失敗したけど上手にできたのがうれしかったです。

原田あかね（小六・ミカエル）
文学館と町めぐりが楽しかったです。前に文学館に行った時とは違い、じっくり聞けてよかったからです。町めぐりでは色んな小樽の町を見られてよかったです。

佐久間愛子（中一・今金）
私が一番たのしかったことはバーベキューです。カルビがたくさん食べられておいしかったです。和菓子製作体験では三種類の和菓子を作りました。どれも魅力的で楽しかったです。

大友　然（ぜん）（小六・ミカエル）
ぼくがユース・アッセンブリーに参加して楽しかったことは小樽の歴史を知ることができたことです。教えてもらった石川啄木はぼくと少し似ていて親しみがわきました。楽しかったです！

枝（えだ）　朋志（ともゆき）（小六・帯広）
僕が参加した中で一番楽しかったことは和菓子作り体験で上手くできたことです。一番嬉しかったことは嫌いだったトマトが食べられるようになったことです。

吉田彩来（さら）（中一・ミカエル）
私が一番心に残ったことは和菓子作り体験です。なぜかというと、初めての和菓子作りで、かっぱの和菓子が下を向いてしまったけれど、かわいく出来たからです。

宮本　実（みのり）（小五・札キ）
今回、初めてユースに参加して少し心配だったけどみんなで楽しくできてよかったです。セッションでは学校で習わないことも教えてもらったし、小樽の有名人も知れました。

道北四教会合同礼拝巡礼記

道北分区協働司祭
アンデレ　甲　斐　博　邦

定住牧師の居ない教会を励ますために始められた稚内聖公会での合同礼拝は今年で一四回目です。今年は全国に参加を呼びかけました。すると東京からは浅見国貴さん、青森県から植木明美さん、十勝から尾関敏明、真理ご夫妻、小樽からは山口峻、迪子ご夫妻、札幌からは鈴木かほるさん、横山明光司祭、由紀子ご夫妻、旭川からは野村學、真由美ご夫妻とお母様の井口弘子さんがこの巡礼に加わり、稚内、留萌、深川、旭川の参加者を含めると総勢三八名。主教さまから横浜教区福田聖公会の眞栄田肇執事が天候不順で参加を断念、執事が神の摂理により稚内でキリストに出会ったことが紹介されました。

巡礼距離をエルサレム巡礼に置き換えると遠くはトルコ、近くはアラビア、アフリカ、エジプトからの巡礼に等しいのです。かくして北上。わたしたちはエルサレム巡礼者の喜びと同じです。

「主の家にいこう、と人々が言ったときわたしはうれしかった。エルサレムよ、あなたの城門の中にわたしたちの足は立っている」　詩編一二二・一

最初の巡礼地は「プルトン神」の排泄物処理場でした。プルトンとは古代ローマの地獄の神です。これが原子爆弾製造のためのプルトニウムの語源です。原子力発電所からの廃棄物の最終処理施設としての候補地が幌延です。この施設の名称は「ゆめ地層館」。日本中からの核廃棄物の密閉容器がここに集まる何万本もの数を埋設する地層研究がここで行われております。それが「ゆめ地層館」です。これは内実を偽装した虚偽の表現。

わたしたちはそこを参考にして久世薫嗣さんの講演を拝聴しました。氏は食の安全を脅かす、幌延町の核廃棄物施設誘致に対して反対運動を展開しておられます。わたしたちは巡礼の途上で出会った久世さんへの声援を惜しみませんでした。その夜わたしたちは「シロアムの池」のような皮膚病に効能のある豊富温泉で眠りにつきました。

八月二六日（日）わたしたちはたった二人で教会を守っておられる本原満栄さんと與賀田敏子さんの稚内聖公会に到着しました。

「主の僕らよ、こぞって主をたたえよ。夜ごと・主の家にとどまる人々よ、聖所に向かって手を上げ主をたたえよ」

詩編一三四・二六

カトリック教会の「イエスの小さい姉妹の友愛会」の修道女マドレーヌさんとロザリオさんを加えた巡礼団の捧げる感謝と賛美の歌声の中、主教様の説教をわたしたちは拝聴いたしました。わたしたちの巡礼はお医者さんのいる巡礼でした。そのドクター野村學医師が手品を披露され、旅の疲れを吹き飛ばしてくださいました。

主教様の励ましで来年も稚内への巡礼が決まりました。

全国の皆さんわたしたちの巡礼を共にいたしませんか。

教会だより SEPTEMBER

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸（あっけし）聖オーガスチン教会

八月三日頌栄保育園夏祭り、何とか天候に守られ、楽しく無事終わりました。

『八代家』墓参の方々があり、今年は二組。また、英国に留学されアイヌの研究をされている方が、アイヌ教育に携わった歴史を調べに来られ、案内役は大忙し。

一九日主教様巡回日。愛餐会後「マザーテレサの祈り」の歌唱指導をいただき、豊かな心に包まれました。

前日の一八日には厚岸聖オーガスチン教会に主教様をお迎えして、半年ぶりの礼拝・聖餐式を持つことができました。感謝です。

▽新冠（にいかっぷ）聖フランシス教会

八月一二日（聖霊降臨後第一二主日）、年間を通しての逝去者記念聖餐式をお献げしました。その中で、当教会に関わる先に逝かれた方々九八名のお名前が読み上げられ、パラダイスにおける光明と平安をお祈りいたしました。また、礼拝後には地下納骨室に安置されているご遺骨の前で祈りを献げました。

一五日（水）午後には、いつものように判官館の墓地にて墓前礼拝をお献げしました。朝から雨模様だった日高地方も、この時間だけは雨も降らず、しのぎ易いひと時でした。

▽小樽聖公会

八月九日（木）～一二日（日）まで、ユース・アッセンブリーが当教会を会場に行われました。初日の夕食の準備は婦人会が奉仕させていただき、最終日の主日には参加者、スタッフの皆さん総勢一四名と一緒に聖餐式に与り、愛餐をともにいたしました。感謝。

一八日（土）は、つかのまの過ごしやすい天候にも恵まれたなか、牧師館の庭で今年最初のガーデンパーティーが行われました。バーベキューのほか、焼きたての窯焼きピザなど、礼拝後の愛餐会とはまた違う楽しい歓談と交わりのひとときとなりました。

▽苫小牧聖ルカ教会

今年は蒸し暑くじめじめした日も多く、皆さまの体調はいかがでしたでしょうか。幼稚園も新しくなり、かわいい〇歳児も加わっています。教会は高齢化が進行していますが、幼稚園はより若返った印象です。教会は例年どおり墓地礼拝を行い、八日には歌と祈りの集い、一二日にはバーベキューと吉野司祭もフル回転。九月のバザーに向けて準備も始まりました。今年のバザーは幼稚園も変わったことから、例年よりも少し規模も大きくなりそうな感じです。

▽稚内（わっかない）聖公会

八月二五日～二六日、「道北四教会合同礼拝」が行われる。例年と同じく第一日目は豊富温泉「ホテル豊富」において交流会。二日目が植松主教様司式、道北分区司祭団補式による大礼拝。これまでとの違いは全道全国の教友に広く参加を呼び掛けたこと、幌延町の核廃棄物最終処分地建設のための研究施設「ゆめ地層館」を見学、その後処分地建設の反対運動を続けてこられた久世薫嗣さんの講演会を行ったこと。参加者三六名。詳しくは、甲斐司祭執筆の本号の記事をご覧ください。

▽函館聖ヨハネ教会

一日、佐波研三兄ご逝去、兄弟の魂に平安を、ご遺族に慰めを。夏休み、平日でも旅行者賑わうヨハネ聖堂、様々な言語で捧げられる祈り。遺愛学生も負けず劣らず、教会で祈りを捧げ、学校へレポート捧げる。ヨハネの完全リニューアルも目前、銀色の足場なくなり函館山に白壁映える。トイレも綺麗、鏡のような白便器。全国の皆さんありがとう。ホームページも見てね。

http://peacebe.net

▽平取（びらとり）聖公会

実りの秋になりましたが、今夏の天候は雨が多く低温で、八月の晴天は五日に満たなかったとのことです。平取を含めて日高管内の作況はどの作物も悪いようです。

二〇〇九年に平取聖公会の一三〇周年記念式の折に「記念誌」を作成し、教会に百冊と記者の手元に百冊を残しました。教会に聖公会の宣教の歴史や、ことにバチラー先生のアイヌ伝道について研究・調査に来られる方が多く、残りは一〇冊となりました。

バチラー保育園の運動会は晴天に恵まれ終了しました。

▽有珠（うす）聖公会

八月二六日、聖餐式。礼拝後、ベストリーの整備・本棚や食器棚・台所の整頓など、大掛かりな清掃に汗を流しました。また、出入りの度に盛大な音を立て皆を驚かせてきた聖堂入り口の引き戸を、皆で苦労して修理しました。

九月二四日（祝）に開催を予定している教会バザーに向け準備を進めています。

伊達高校放送局の皆さんを教会に迎え、取材を受けました。どんなビデオ作品になるでしょうか？楽しみです。

▽留萌キリスト教会

一二日、全逝去者記念式に主教巡回が加わり、幼児四名に大人一二名の賑やかな礼拝でした。三千代さんの奏楽で会衆の讃美が盛り上がりました。午後は墓参の祈りに主教様も参列。教会墓地に続いて、信徒・関係者の墓前を回り、共にお祈りしました。

二五日・二六日は道北四教会合同礼拝に三名出席。幌延の核廃棄物処分研究所を見学し、久世さんの講演を聴き、廃棄方法も場所も無い核開発の問題の多さに、道中話が尽きませんでした。

▽新札幌聖ニコラス教会

一二日、上平聖職候補生がユースアッセンブリ参加で不在のため、下田信徒奉事者によるみ言葉の礼拝が献げられる。

一八日、昨年ご逝去された森本泰子姉のご家族が集まり記念式を行う。二九名が出席し、家族の絆の強さを感じました。

二六日、東京より上平未奈さんの友人家族（聖ルカ礼拝堂信徒）が出席される。津田勇也兄も新しい家族を連れて礼拝に出席。

九月はイベントを控えて一〇月七日のバザーに向けて英気を養う予定。

▽札幌キリスト教会

八月五日逝去者記念聖餐式。午後晴天の中、一三〇名の出席者を得、簾舞の墓地に新たに五名の埋葬者。二〇四名の名前を読み上げ祈りを捧げる。準備奉仕も方々に感謝です。

四日～五日ＧＦＳキャンプが有珠を会場に開催され、スタッフとして三名が出席。

九日～一二日ユースアッセンブリーは小樽聖公会会場。三名の青少年が参加する。

平和を願う祈りと黙想が、六日広島原爆記念日。九日長崎原爆記念日の投下時刻に教会の鐘を鳴らし黙想と祈り、一五日正午より平和を願い鐘鳴し祈る。

二四日大槻聡大さん（阿部恵子さんのお孫さん）受洗モーセの教名を頂き祝福。

二六日大友司祭による司式・説教。司祭の快復を感謝する。

▽札幌聖ミカエル教会

幼稚園は二〇日から二学期が始まり、子どもたちの賑やかな声が戻る。一〇日、ロザリオの祈り会、神林直子さんのお話しを聞き、それぞれが祈りのテーマを持ち寄る。一二日は逝去者記念聖餐式と墓地礼拝。円山墓地では約六〇名の出席。ご家族や信仰の友を偲ぶ。月末から九月上旬にかけて礼拝堂の和紙の張り替えが行われる。二〇年ほど毎に行う作業で、設計者であるレイモンドさんのご夫人ノエミさんのデザインで聖ミカエル教会のシンボルともいえるものです。真新しい和紙で建物全体が若返ったように感じます。

▽聖マーガレット教会

八月二日（日）全逝去者記念聖餐式。午後、藤野・聖山園にて墓地礼拝。さわやかな夏空のもと祈りを捧げる。参列者三一名。

八月二七日（月）より北海道ＹＭＣＡアフタースクールへの教会施設使用がはじまる。北Ｙの施設にトラブルが生じたため。使用願いの申し出があり、その緊急性ゆえ、受け容れることとした。使用期間は九月末まで。教会バザーの準備と重なるが、キリストの心を思うと「受け容れ」は優先すべき事柄と判断。

▽帯広聖公会

八月六日、九日は広島、長崎への原爆投下記念日。八月一五日は終戦記念日を覚えて平和の鐘、点鐘礼拝が行われました。八月一七日は幼稚園の二学期始業式が行われました。八月九日～一二日までユースアッセンブリーが小樽聖公会で行われ、当教会からは枝朋志さん（小五）が参加しました。八月一二日、一九日は松井司祭による聖餐式が行われ、一九日はギデオン協会の方が来会しました。八月二六日は永谷司祭による聖餐式が行われました。八月は命のパンシリーズの説教でお二人の司祭から永遠の命であるイエス様のみことばについて学びました。神様からの一方的な愛と憐みとイエス様の尊い十字架の犠牲について感謝し、黙想する八月でもありました。

▽岩見沢聖十字教会

八月一九日逝去者記念礼拝、天の会衆となられた先達を偲び魂の平安を祈りました。幼稚園は三日、園庭や園内環境改善の為の園庭セミナーを実施、道内外より五〇名余の参加者あり。聖十字の先生も園児、先生方の変化について発表。二五日バザー・フェスティバルには教会も出店。園ホールでの実施でしたが、子ども達の太鼓やビンゴゲーム等もあり大盛況。収

益の一部は災害復興支援に献金。園の敷地の一角に長い間切望していた教会名、幼稚園名を記したネーム・プレートが設置されました。

▽室蘭聖マタイ教会

八月五日藤井兄によるみ言葉の礼拝。一二日吉野先生による聖餐式後食事をし、白鳥台の教会墓地に移動して墓地礼拝が行われる。白老の小林望さん夫妻、いらっしゃる。暑い日差しの中、今年も礼拝が守られる。

一九日藤井兄によるみ言葉の礼拝。二六日吉野司祭による聖餐式。

おとなりの高山さんが風が強かった時に牧師館の窓を直して下さる。感謝。藤井扶美子さん、体調が回復し教会に来られるようになる。

▽今金インマヌエル教会

七月中旬ご高齢信徒が少しでも安全に昇降できるように入口階段を改造しました。八月一二日礼拝に先立ち墓参の祈り、全信徒の墓を参集皆様と巡り祈りました。平野家の幼い二人のお孫さんの祈りに、み国の皆様も喜んでおられることでしょう。二六日は一〇時半より主日礼拝を守りました。農村教会は、家業多忙中閑有りです。天候に一喜一憂ですが願いに違わず、天よりの恵みを与えられたと思います。何事も自然体で、いま目の前にある仕事をこなし感謝の日々をすごしたいと思います。

▽網走聖ペテロ教会

涼しさがやっと訪れて来てくれました。

一一日（土）ヨハネ山本弘逝去者記念の式（逝去一年記念）が行われ、多くの方々が祈りの輪にお加わりくださいました。翌日一二日（日）は午前が全逝去者記念礼拝、午後は墓地礼拝で皆様と共に墓参の祈りを献げ、司祭は三つの墓地をまわりました。訪問は司祭だけでも、信徒と司祭でも、信徒だけでも行われています。勉強会もペテロの会も毎月守られています。先日転居された横川正敏兄を皆でお訪ねいたしました。

▽北見聖ヤコブ教会

暑さの中、体調を崩される方がいないかを心配しながら五日（日）に墓地礼拝が行われ、皆様の賛美とヒムプレーヤーのパイプオルガンの調べが墓地内に響きました。一九日（日）には沖本さんのご親戚の方々も来会され感謝でした。隣地駐車場と牧師車駐車スペースの草刈りも二日間かけて行われました。司祭は月一でＹＭＣＡで三〇名ほどの子どもたちとお礼拝の時を持っているのですが、身を乗り出して聴く子どもたちの姿に励まされています。

▽深川聖三一教会

八月四日、合田敏子さんの埋骨式を妹背牛墓地で行い七名参列。五日矢野重臣さんの逝去二年の記念式、主日礼拝者全員参列。一三日納内、一四日深川、一五日内園、音江丸山の各墓地礼拝があり魂の平安を共に祈る。一六日保育園職員会議、主任より「不審者対応」の避難訓練について指導と確認がありました。二六日稚内聖公会での道北四教会合同礼拝に四名参加す。三一日保育園新園舎の起工式が植松主教様司式、園児も鍬入式に参加、神の園はここにありと主教様より拝聴す。

▽旭川聖マルコ教会

四日恒例の頌栄保育園「交流キャンプ」が行われ年長組卒園児が一泊二日で交流を深めました。一二日、神居共同墓地でオーガスチン辻諭兄の埋葬式を行い終了後、墓地礼拝を行いました。世を去った全ての信徒の魂の平安をお祈りいたしました。

一九日バザー会議が行われ九月三〇日の本番に向けて活動が始まりました。同日午後六時から「第三二回安保法制に反対する旭川宗教者の集い」が集会室で行われました。三浦千晴神学生が二二日から二九日まで実習を行いました。二四・五日「道北四教会合同礼拝」を行い、みなさんとの信仰を深める事ができました。

▽紋別聖マリヤ教会

八月は毎年お客様が多いのですが、今年も様々な地域から来紋され、いつにも増して国際色豊かな礼拝をお捧げした月でした。五日、教会委員会のあと即、墓地礼拝。全員で草むしりをしてから始まりました。長く教会から離れていた信徒の方からの連絡もあり、近い将来良い交わりが始められればと願っているところです。幼稚園では、一七日に始業式、さっそく年長児が海遊びに出掛けるなど、いつもの賑わいが戻ってきました。二学期も子どもたちの安全と平安が守られますように。